

RESAS分析データ

鹿児島県鹿児島市

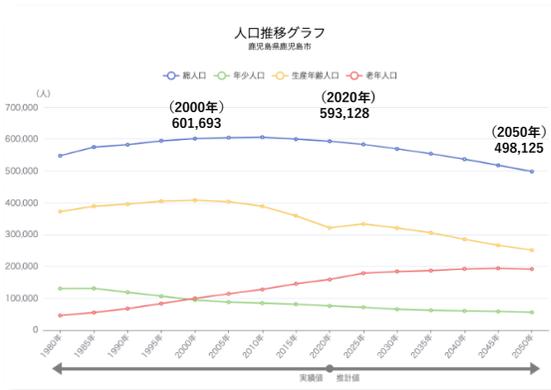
<https://resas.go.jp>



人口

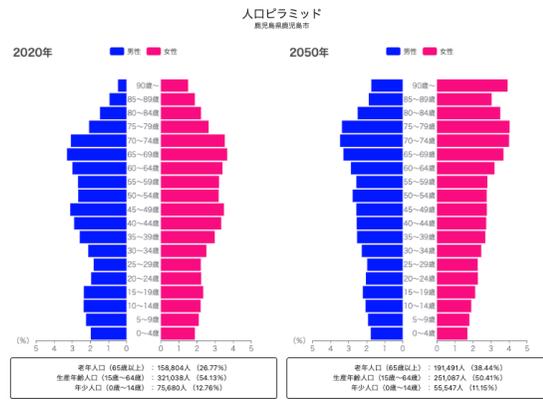
- 2020年は総人口593,128人。20年前（2000年）の601,693人に対して減少していると言える。年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。事業者は、少子高齢化の進行に対応したビジネスモデルの再構築が必要といえる。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。
- 人口ピラミッドは、現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の26.77%から2050年には38.44%まで上昇する見込み。一方、生産年齢人口は2020年の54.13%から50.41%まで低下する見込みであり、労働力不足、消費の縮小などが予測される。
- 滞在人口は昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。昼間と夜間、平日と休日にほぼ差異がなく、市民は平日市内で通勤通学を行い、休日も市内で過ごしていると考えられる。

年齢別人口推移



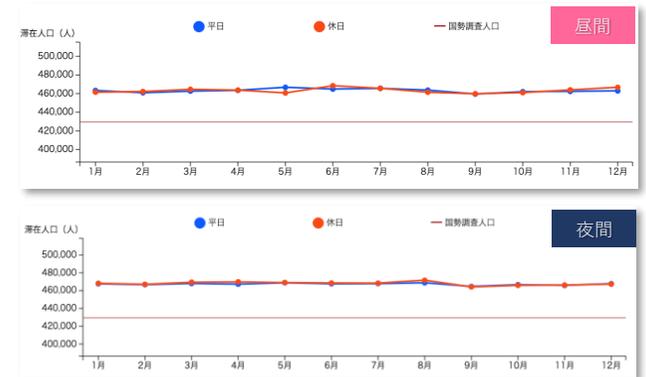
* 人口マップ → 人口構成 → 人口推移

人口ピラミッド



* 人口マップ → 人口構成 → 人口ピラミッド

滞在人口 (2022年、上：昼間、下：夜間)



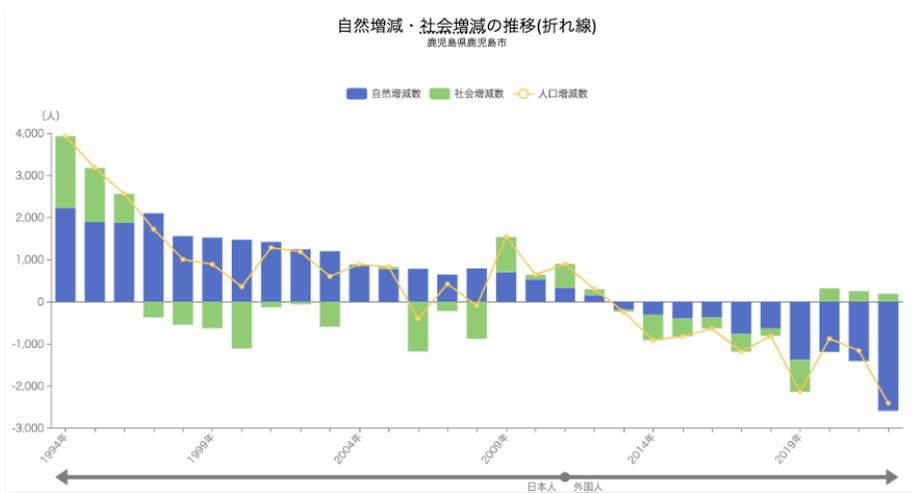
※昼間は14時、夜間は20時のデータ

* まちづくりマップ → 滞在人口率

人口増減の要因

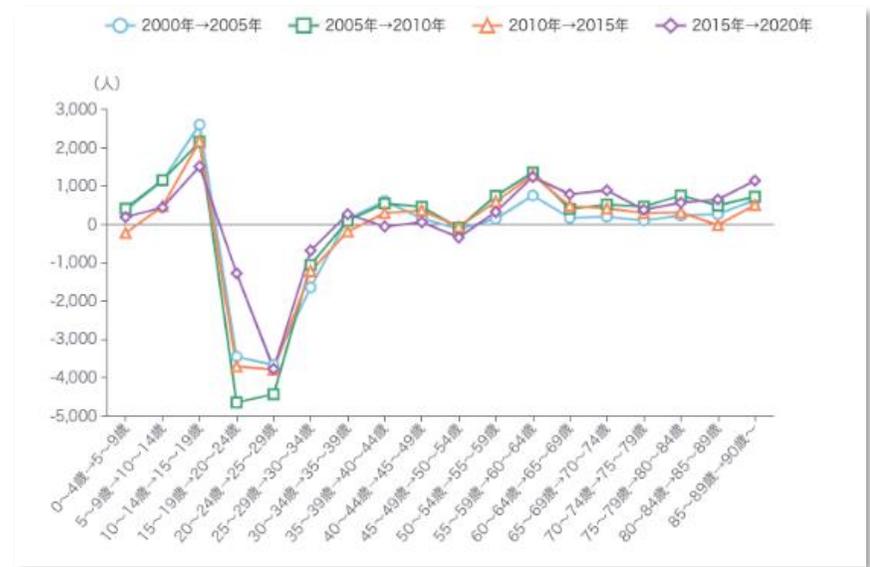
- 近年は、社会増が微増しているが、自然減が加速化しているため、人口増減数全体としては減少している。
- 年齢階級別純移動数の時系列推移については、大学進学時、就職等のタイミング（15～19歳→20～24歳、20～24歳→25～29歳）で人口が大きく流出後、年代ごとに増減の波はあるが、大きな流れとしては横ばいの傾向がみられる。

自然増減・社会増減の推移



* 人口マップ→人口増減

年齢階級別純移動数の時系列推移



* 人口マップ→人口の社会増減

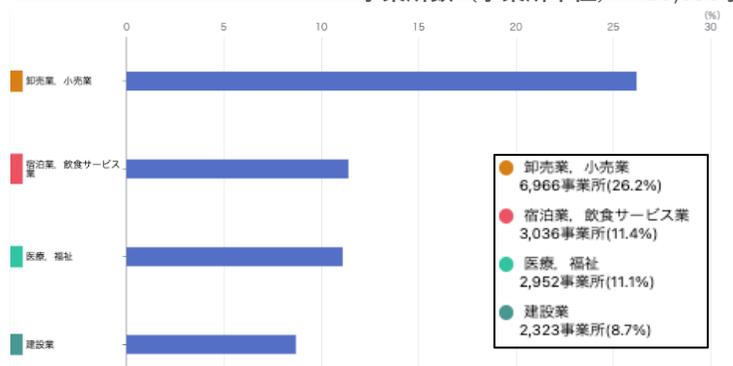
【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想
実現会議事務局作成

産業構造 < 事業所数 >

- 業種ごとの事業所数を示したグラフをみる。
もっとも多いのは「卸売業、小売業」の6,966事業所で、全体の26.2%を占めている。
その後「宿泊業、飲食サービス業」の3,036事業所11.4%、「医療、福祉」の2,952事業所11.1%が続く。
- 事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年は26,595事業所。9年前の2012年と比較すると27,634事業所だったので3.8%減である。

事業所数（事業所単位）大分類（2021年）

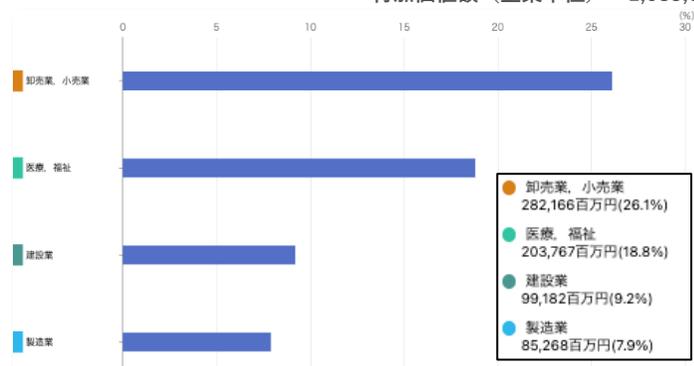
事業所数（事業所単位）：26,595事業所



* 産業構造マップ → 全産業 → 全産業の構造

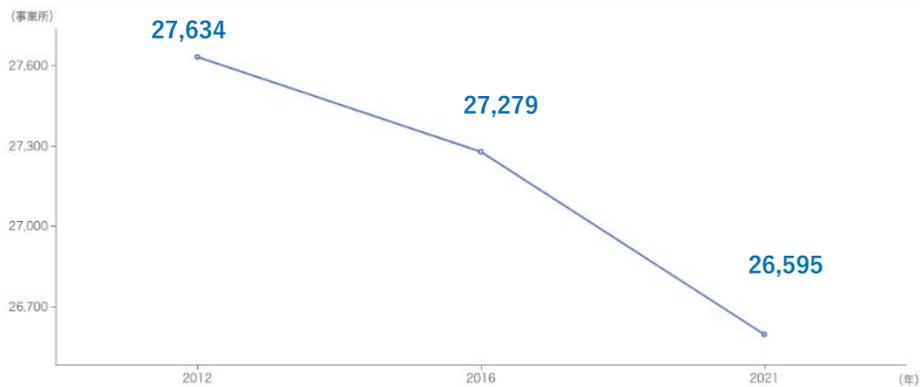
付加価値額（企業単位）大分類（2021年）

付加価値額（企業単位）：1,083,072百万円



* 産業構造マップ → 全産業 → 全産業の構造

事業所数の推移



* 産業構造マップ → 全産業 → 事業所数

労働生産性（企業単位）（2021年）



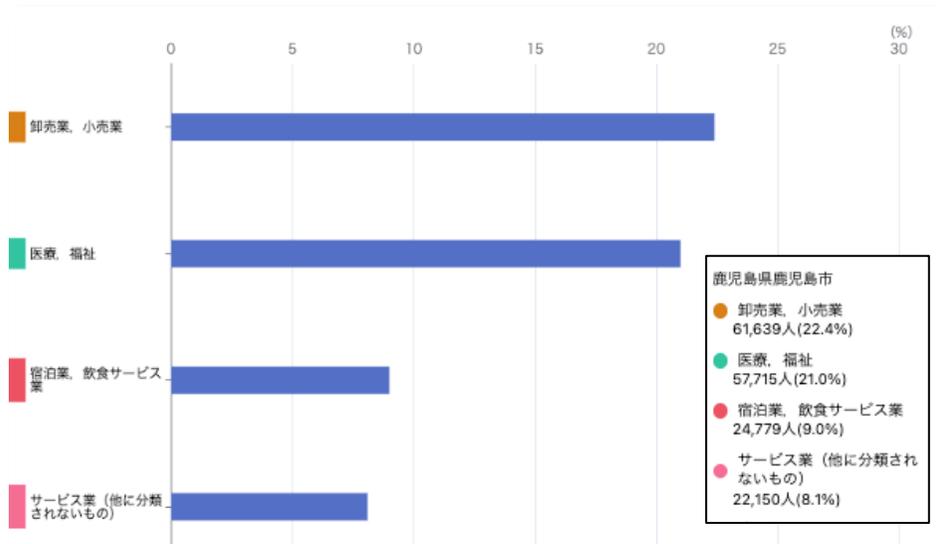
* 産業構造マップ → 全産業 → 付加価値の構造分析

産業構造 < 従業者数 >

- 業種ごとの従業者数を示したグラフをみる。
もっとも多いのは「卸売業、小売業」の61,639人で、全体22.4%を占めている。
その後「医療・福祉」の57,715人の21.0%、「宿泊業、飲食サービス業」の24,779人の9.0%が続く。
- 従業者数の推移を示したグラフをみる。
2021年は274,681人、9年前の2012年の277,726人と比較すると1.1%減である。

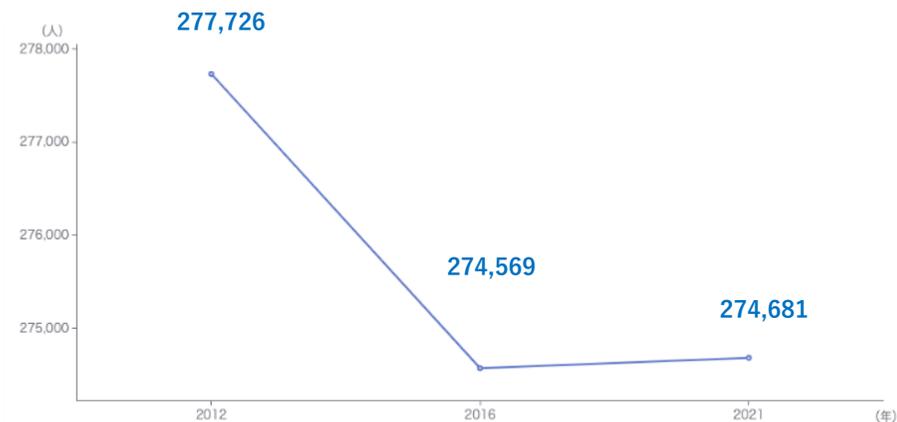
従業者数（2021年）

従業者数（事業所単位）：274,681人



* 産業構造マップ → 全産業 → 全産業の構造

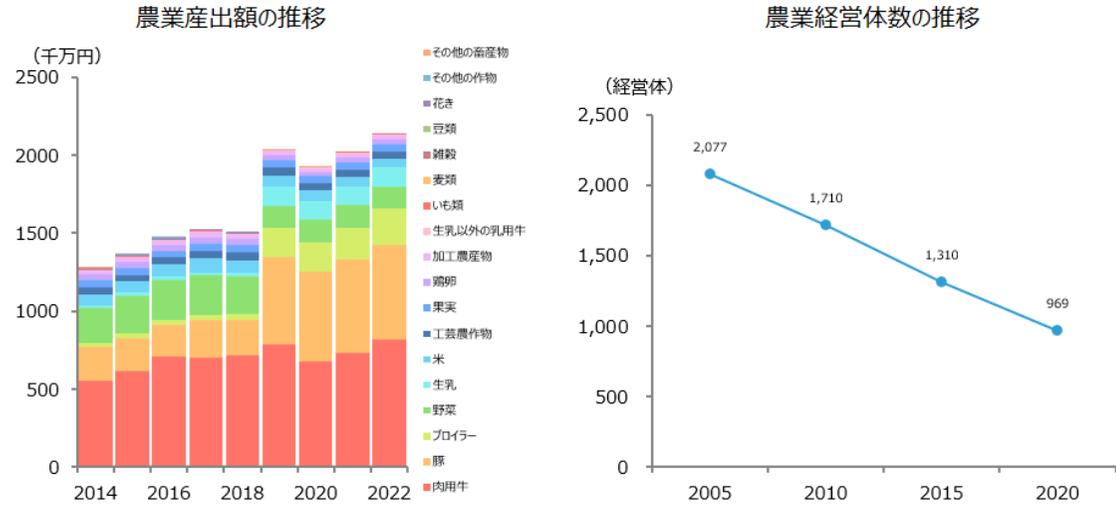
従業者数の推移



* 産業構造マップ → 全産業 → 従業者数（事業所単位）

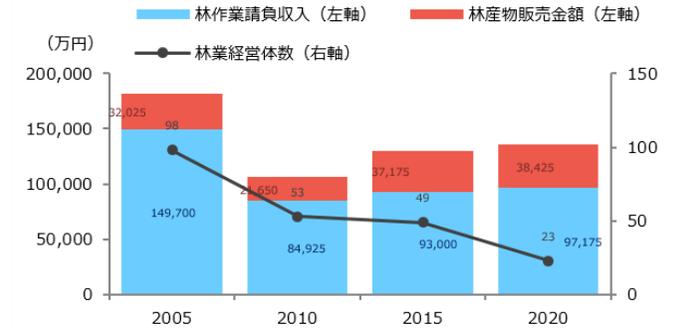
産業構造 < 一次産業（農業・水産業・林業） >

農業産出額・農業経営体数の推移

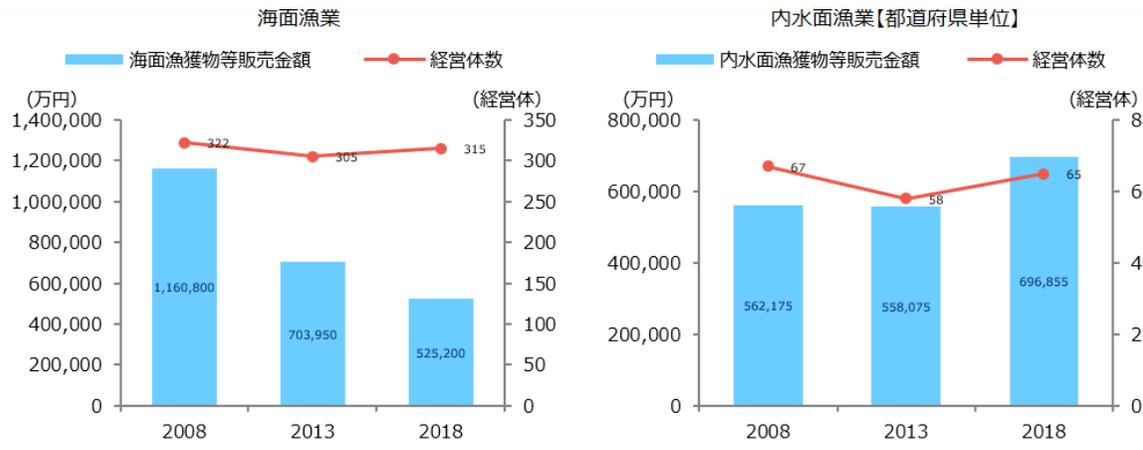


林業総収入・林業経営体数の推移

・林業総収入と林業経営体数の推移を表示しています。
 ・林業の拡大・縮小傾向を、総収入と経営体数の変化から概観します。



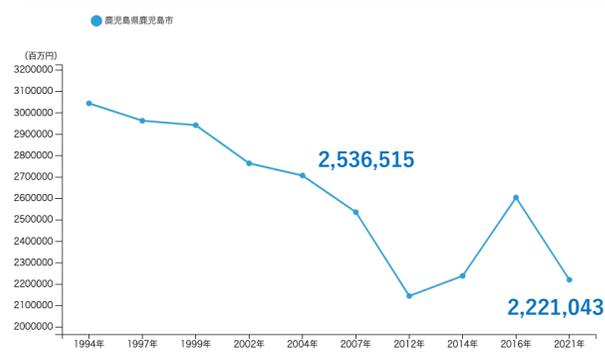
漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移



小売業・卸売業

- 小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフをみる。
2021年の年間商品販売額は2,221,043百万円である。
14年前の2007年と比較すると2,536,515百万円なので、-12.4%減である。
- 小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年の事業所数は、小売業3,977事業所、卸売業1,908事業所である。2007年と比較すると、小売業は31.0%減、卸売業は15.2%減となっている。
- 小売業・卸売業の従業員数の推移を示したグラフをみる。
2021年の事業所数は、小売業33,195事業所、卸売業19,257事業所である。2007年と比較すると、小売業は12.1%減、卸売業は17.1%減となっている。

年間商品販売額の推移



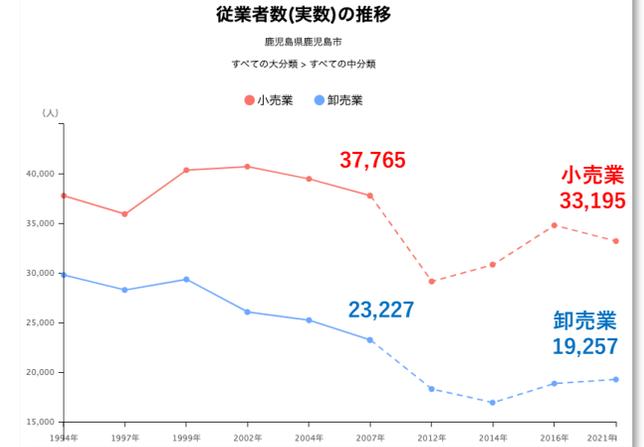
* 産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

事業所数(小売業・卸売業)の推移



* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

従業員数(小売業・卸売業)の推移



* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

* グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

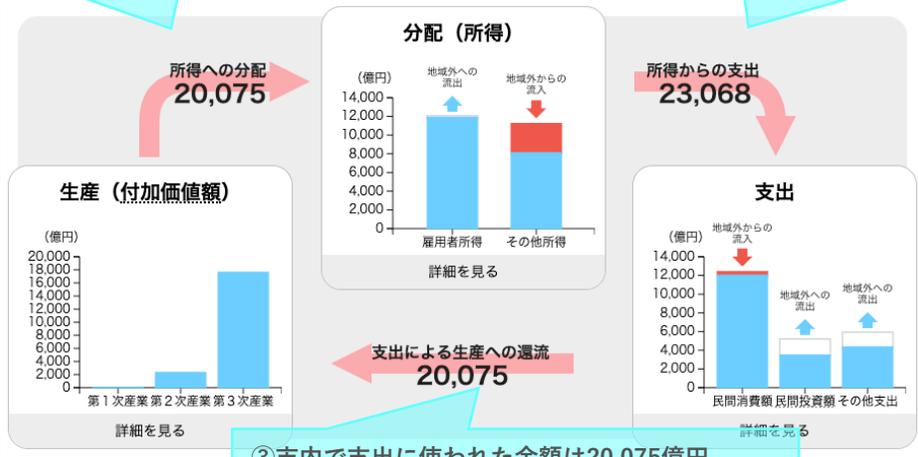
地域経済循環

- 地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。
- 右図の「生産（付加価値額）」の内訳を面の大きさを示したグラフである。付加価値額が高いのは「保険衛生・社会事業」「小売業」「建設業」である。
※なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業（赤色）と地域外から必要としているものを調達している産業（青色）を表している。

地域経済循環図（2018年）

① 鹿児島市の企業は合計20,075億円の付加価値を生み出している。

② 付加価値のうち、支出に回されるのは、23,068億円。市外からの流入があるので付加価値を上回っている。

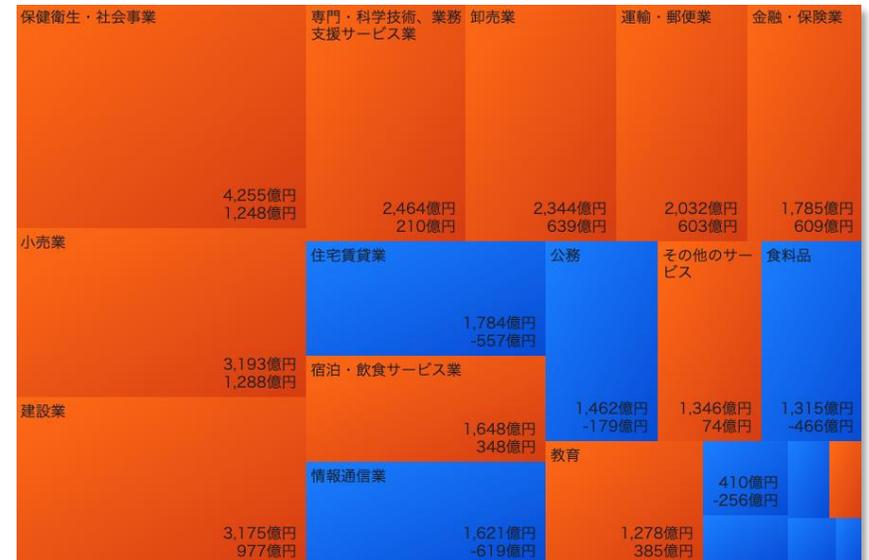


③ 市内で支出に使われた金額は20,075億円。市外への流出があるので23,068億円より少ない。

* 地域経済循環マップ→地域経済循環図

生産分析（2018年）

総額：32,021億円



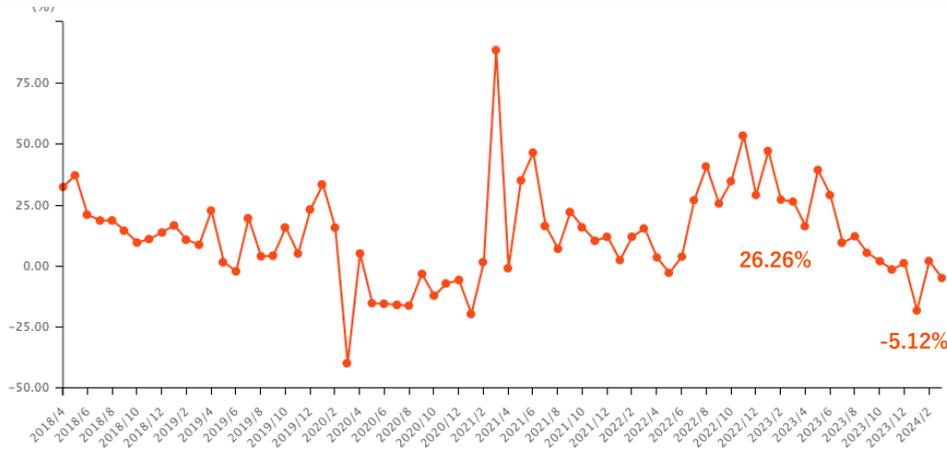
上図以外の付加価値額の合算：979億円

* 地域経済循環マップ→生産分析

雇用

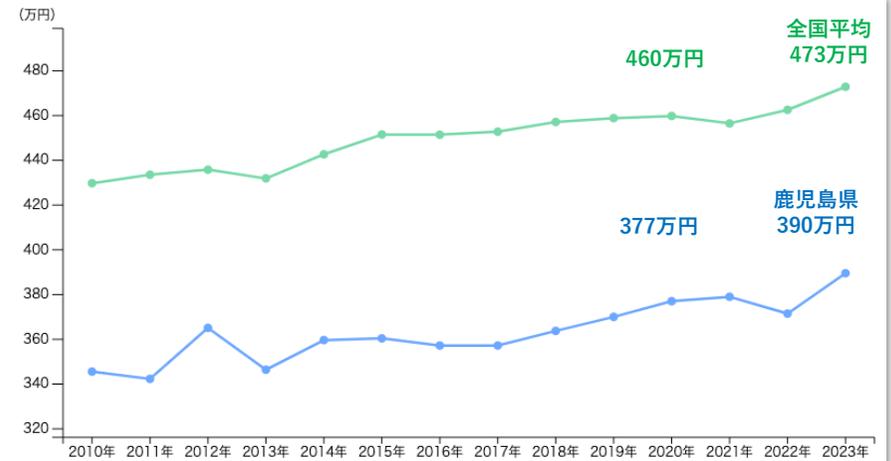
- 鹿児島市の求人情報数の推移（事業所単位：前年同月比）を示したグラフをみる。
2024年3月は、前年同月比-5.12%と求人情報が減少している。1年前の2023年3月は、前年同月比26.26%である。
- 鹿児島県の一人当たりの賃金を全国平均と比較したグラフをみる。
2023年の鹿児島県は390万円であり、全国平均の473万円と比べて低い。一人当たり賃金の全国順位は39位である。

求人情報数の推移（前年同月比）



*産業構造マップ→雇用→求人情報の比較

一人当たり賃金

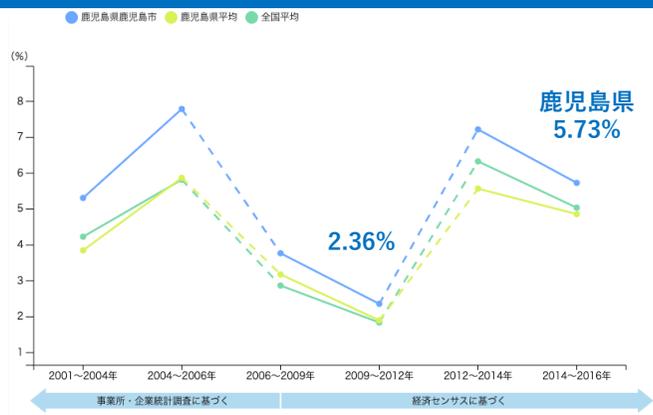


*産業構造マップ→雇用→一人当たり賃金

創業・企業活動

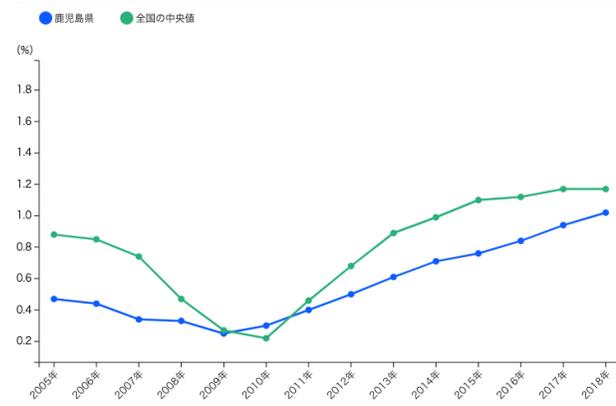
- 創業比率の推移の推移を示したグラフをみる。
2001年以降、創業比率は全国平均及び鹿児島県の平均を上まわっている。
- 黒字赤字企業比率の推移を示したグラフをみる。
全国と比較した際、黒字企業率は少なく、赤字企業率は多い、一方鹿児島県と比較すると黒字企業率は多く、赤字企業率は少ない。

創業比率の推移



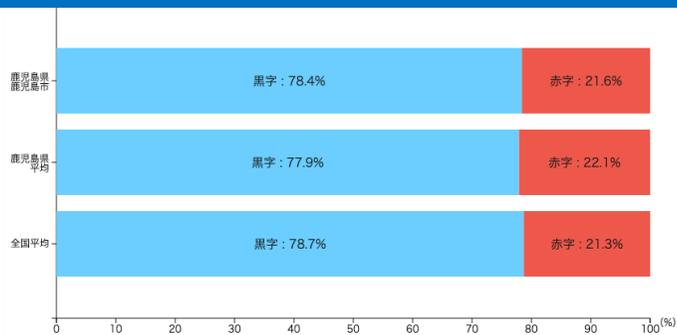
* 企業活動マップ→企業情報→創業比率

中小・小規模企業財務比較



* 企業活動マップ→企業情報→中小・小規模企業財務比較

黒字赤字企業比率



* 企業活動マップ→企業情報→黒字赤字企業比率

企業の海外取引分析

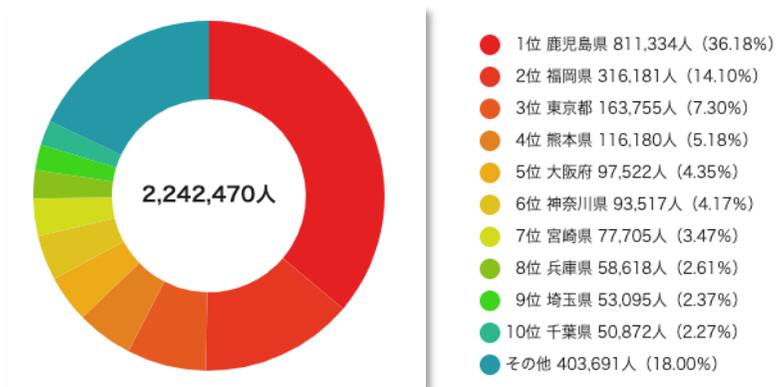


* 企業活動マップ→海外取引→企業の海外取引分析

観光・外国人消費

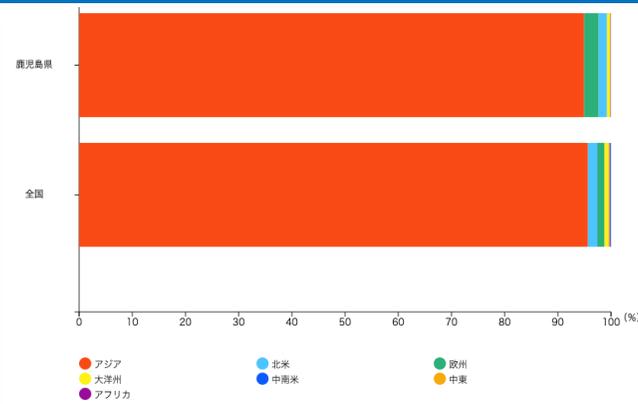
- From-to 分析(宿泊者)を示した円グラフをみる。
鹿児島県からの宿泊者が一番多く36.18%を占める。福岡県 14.10%、東京都7.30%が続く。
- 目的地検索ランキング(休日)を示したグラフをみる。
名勝 仙巖園が90回と一番多い。道の駅 桜島 47回、城山展望台 44回が続く。

From-to 分析(宿泊者)



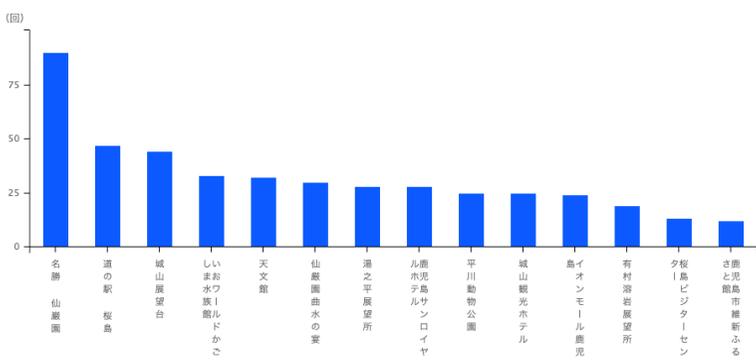
*観光マップ→From-to分析(宿泊者)

外国人消費の比較(免税取引)



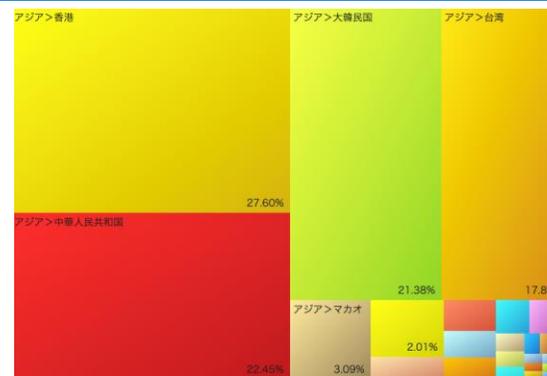
*消費マップ→外国人消費の比較(免税取引)

目的地検索ランキング(休日)



*観光マップ→目的地分析

外国人消費の構造(免税取引)



*消費マップ→外国人消費の構造(免税取引)